

東久留米市立大門中学校 第3学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	文章を読んだ上で、自分の考えをもち、表現することに課題がある。	文章を正確に読めているか4人一組のグループワークを多用し、確認していく。ノートやワークシートなどに自分の考えを表現できる学習活動を行うように指導していく。	○ノートやワークシートなどで思考・判断・表現の観点別評価を行う時、各単元でC評価の人数を1桁に減らす。
社会	資料を活用して答えたり、資料と基礎的知識を結び付けて答えを導き出したりする問題に慣れていない。	ICT機器（モニター・実物投影機・DVDなど）を使用することで視覚で確認し理解させるようにする。授業中にスモールステップで簡単な問いを解かせることで自信を付けさせる。	○1学期期末考査の正答率が30%程なので、正答率40～50%を目標とする。
数学	既習内容の理解が十分ではない。計算力は一定以上あり、思考判断表現の解法に不十分な点がある。筋道立てて考え、検算や検証する必要がある。	疑問を持たせる授業づくり、考える時間を大切に授業を大切にする。また、適宜小テストの実施から、自身の理解定着を図り、「知識・技能」と「思考・判断・表現」のバランスよい理解の定着を図る。	●小テストや定期テストの実施から理解の定着を図る。定期テストでは、「知識・理解」については80%、「思考・判断・表現」については60%の達成率を目標とする。
理科	実験結果に基づいて考察を進め、自分の言葉で表現することが苦手な生徒がいる。	班での話し合い活動を増やし、発表用ホワイトボードを活用し、考えの共有の仕方やまとめ方を身に付けさせる。	○実験レポートにおいて、考察を自分の言葉でまとめられるようにし、B評価を80%以上にする。
音楽	表現意欲はあるが、技能が追い付いていない生徒がいる。	身近なところから興味を引き出し、音楽の仕組みや理解を深め、自ら表現を工夫できるような学習活動を展開する。	◎歌唱の実技テストでB以上の評価が60%を超えるよう指導する。個々の課題を評価カードに記載して返却する。
美術	見る力、感じる力、それを表現する力を更に伸ばす必要がある。	手作り絵本製作で計画性と丁寧さを養い、鑑賞レポートで表現の奥深さを知り、堆朱工芸で工芸作品の美しさを学ばせる。	○作品を提出させる。その評価が上がる生徒を10%以上上げる。
保健体育	全体的に意欲的に活動をしているが、技能を習得するために、自己の課題を発見し、改善方法を自分なりに考え、表現する力が十分でない生徒が多い。	毎時間の目標と課題を学習カードに記入しながら、次回の課題を設定させる。学習カードの記述から個別に教師が助言をする。また、単位によってはペアやグループでの話し合いの時間を設け、仲間からアドバイス等もらうことで、対話的で深い学びを促し、課題解決への思考を深める。	◎学習カードの記述での「思考力・判断力・表現力」の評価において、A評価となる生徒の割合が40%以上になることを目指す。
技術	技術科で学んだ知識・技能の生かし方をどう発展させるかの意欲が必要である。	家庭生活や社会で生かせる知識・技能をテーマごとに再認識させ、自らの生き方に展望をもたせる授業内容とする。	◎生きて働く知識・技能の習得に重点を置き、作業パフォーマンス・ワークシートによる点検で、B評価が60%以上になることを目指す。

東久留米市立大門中学校 第3学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
家庭	子供の成長を支えるのは家族、地域や社会の役割が大きいですが、少子化であり乳幼児と関わる機会が少ない。知識は習得しても理解が十分ではない。	社会で起きている家族の問題について、対話を通じた学習の中で問題解決に向けて考える機会をつくる。	◎共存社会に向かっていくことの重要性を捉え、自ら考えることができ、レポートでB評価が60%以上になることを目指す。
外国語	与えられた課題をこなすことができる生徒は多いが、自ら課題を捉え、やるべきことを判断し、やり遂げるといった、「自主的に学ぶこと」が苦手な生徒が多い。	単元のゴールを明確に示し、毎授業で振り返りを行う中で、自らの課題を捉えさせ、家庭学習を行わせる。また、毎授業家庭学習でしたことをチェックし、自主学習の定着を図る。	◎学期ごとにアンケートを行い、全生徒が「昨年度よりも自主学習ができるようになった」と回答する。
道徳 特別の 教科	自分の意見を意欲的に発表する生徒が少ない。	ペアやグループで意見の交換をさせ、他者の視点やものの考え方を知ることの面白さや、自分自身の発言が他者の学びにつながることを認識させる。	◎友達の見聞き、自分の考えを深めることができたか。（ワークシートからの見取り）
習 総合的 時間 学	社会で必要となるコミュニケーション能力・人間関係形成能力の育成と自己認知力の向上が必要である。	進路学習を通して、自己について深く考え、振り返り、分析する機会を設ける。中学校生活最後の学年として、様々な場面で義務教育を終える意義や将来の展望について考える場面をつくる。	◎年間を通して、特に進路決定の際に自己を振り返ることで、自分のことについて考えたり述べたりすることができることを目指す。